【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和4年10月19日(2022.10.19)

【公開番号】特開2021-193650(P2021-193650A)
【公開日】令和3年12月23日(2021.12.23)
【年通号数】公開・登録公報2021-062
【出願番号】特願2020-99367(P2020-99367)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｒ 13/514(2006.01)
Ｈ０１Ｒ 13/42(2006.01)
Ｈ０１Ｒ 13/58(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ 13/514
Ｈ０１Ｒ 13/42　　Ｈ
Ｈ０１Ｒ 13/58

【手続補正書】
【提出日】令和4年10月11日(2022.10.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
筒部４１の後方には角筒状をなす電線接続部４２が設けられている。電線接続部４２の天井壁（上壁）の後端部には上側挟持部４３Ａが後方にのびて設けられている。電線接続部４２の底壁（下壁）の後端部には下側挟持部４３Ｂが後方にのびて設けられている。上側挟持部４３Ａと下側挟持部４３Ｂは前後方向にのびた細長い形状をなしている。上側挟持部４３Ａと下側挟持部４３Ｂの前後方向の長さ寸法は同じに形成されている。同じとは厳密な意味での同じを意味するものではなく、同じとみなされる範囲であれば本開示の効果を奏する範囲で幅を持つ意味である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
[第１サブハウジング６０]
第１サブハウジング６０は、図９および図１０に示すように、扁平な直方体形状をなしている。第１サブハウジング６０は、前後方向に貫通し幅方向に並んで配置された複数のキャビティ６１と、各キャビティ６１の間に配された複数の隔壁６２と、を備えている。各キャビティ６１は、各サブハウジング６０、７０が正規に積層された場合に、第２サブハウジング７０の各キャビティ７１と上下方向に並ぶように配されている。各キャビティ６１には、後方から端子３０が挿入可能である。各キャビティ６１の天井壁（上壁）６３の前端側には、図３に示すように、ランス４６が前方から係止可能なランス係止部６４が設けられている。ランス係止部６４は、キャビティ６１の天井壁６３を上下方向に貫通する貫通孔を設けることで形成されている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３５】
［第２サブハウジング７０］
第２サブハウジング７０は、図９および図１０に示すように、扁平な直方体形状をなしている。第２サブハウジング７０は、前後方向に貫通し幅方向に並んで配置された複数のキャビティ７１と、各キャビティ７１の間に配された複数の隔壁７２と、を備えている。第１サブハウジング６０と共通する構成についてはその説明を省略するものとし、符号の１０の位を６から７に変更した符号を用いるものとする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
前側係止部７７Ｂは、第１サブハウジング６０の前側受部６７Ａに対して下方から係止し、後側係止部７８Ｂは、第１サブハウジング６０の後側受部６８Ａに対して下方から係止する。これにより、第１サブハウジング６０とその上側に積層された第２サブハウジング７０とが正規に積層された状態に保持される。さらに、下段側の第２サブハウジング７０に対して上段側の第２サブハウジング７０が組み付けられることで、図１７に示すサブハウジングアッシー１１が構成される。